

令和元年度「飼料用米多収日本一」コンテスト受賞者の取組概要

茨城県農業再生協議会長賞 片岡 秀男(利根町)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
オオナリ	8.4ha	686kg/10a	186kg/10a

【取組の理由・作付品種】

- ・H25から「ホシアオバ」や「夢あおば」等で飼料用米生産に取り組んでいる
- ・H28に「夢あおば」で鹿島地域飼料用米生産利用推進協議会長賞を受賞。
- ・河内町の生産者の助言により、R1から「夢あおば」から「オオナリ」に切り替えた。

【取組概要】

- ・移植日:5/4~8 収穫日:9/20
- ・施肥:4/25 軽量一発077 45kg/10a(窒素13.5kg/10a)
- ・オオナリは出芽揃いが悪く育苗しづらいため、育苗期間をやや長め(25日程度)にしている。
- ・栽植密度は50株/坪、植付本数はやや少なめにしつつ、疎植になりすぎないように気を付けている。
- ・水管理は生育期間中は深水とし、中干しは軽め。
- ・高温や強風等の気象災害に強い稲づくりのため、間断灌漑期間もなるべく水を切らないようにしている。
- ・地域の大規模経営体から品種や技術に関する助言を受けながら、除草や水管理等の基本技術を徹底。

鹿島地域飼料用米生産利用推進協議会長賞 (株)レイクフォー(行方市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
あきだわら	7.2ha	670kg/10a	150kg/10a

【取組の理由・作付品種】

- ・H28から「ゆめひたち」、「チヨニシキ」、「あきだわら」等で飼料用米生産に取り組んでいる。
- ・H30に「あきだわら」で協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞を受賞。
- ・R1から安定的に収量を確保できる「あきだわら」に全面積を切り替えた。

【取組概要】

- ・移植日:4/29~5/2 収穫日:10/2~5
- ・施肥:4/13~15 BBファイト066 30kg/10a(窒素9kg/10a)
- ・収穫時期の作業効率向上及び十分な登熟期間確保のため、移植時期を分散。
- ・高密度播種育苗栽培(230g/箱)に取り組み、苗箱使用数を11~12枚/10aに削減。
- ・除草剤及び育苗箱施用剤は担い手直送規格を利用、肥料の予約注文でコスト削減。

協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞 仁瓶 勝一(常陸大宮市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
月の光	1.2ha	649kg/10a	171kg/10a

【取組の理由・作付品種】

- ・H20年から「クサホナミ」で飼料用米生産に取り組み、その後は「ホシアオバ」を栽培。
- ・R1から地域で栽培されている「月の光」に切り替えた。

【取組概要】

- ・移植日:5/7~5/10 収穫日:10/9~11/4
- ・基肥:5/7~10 BBファイト066 30kg/10a(窒素9kg/10a) 追肥:8/1 尿素10kg/10a(窒素4.6kg/10a)
- ・自家産の牛ふん堆肥1.5t/10aを投入。
- ・6月中~下旬に中干しや間断灌漑を実施し、田面を硬くして稲の倒伏を防ぐとともに、根張りを良くして良好な登熟に努め、未熟粒の発生を抑えている。
- ・生育状況を確認し追肥する等、基本技術に取り組みつつ、安価な尿素を使用することで肥料費を削減。
- ・44株/坪の疎植栽培とし、苗箱使用数や運搬枚数を削減。